

報 告 書 抄 録

ふりがな	ぬき・うらのたにいせきだい2ちてん(2く・3く)							
書名	貫・裏ノ谷遺跡第2地点(2区・3区)							
副書名	令和5年度 中貫貫弥生が丘1号線道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告							
巻次								
シリーズ名	北九州市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第637集							
編著者名	山口裕子							
編集機関	(公財)北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒803-0816 北九州市小倉北区金田一丁目1番3号 TEL093-582-0941							
発行年月日	西暦2025年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぬき うらのたに 貫・裏ノ谷 いせきだい2ちてん 遺跡第2地点 (2く・3く)	ふくおかけんきたきゅうしゅうし 福岡県北九州市 こくらみなみくおおあぎぬき 小倉南区大字貫	40100	3202	33° 48′ 30".18	130° 56′ 10".23	20230821～ 20230902 ・20231016 ～20231130	902.45	令和5年度 中貫貫弥生が丘1号線道路改築事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
貫・裏ノ谷 遺跡第2地点 (2区・3区)	集落跡	弥生時代・ 平安時代～ 近世	溝状遺構 土坑 ピットなど		弥生土器、平安時代～室町時代の土師器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器、近世の陶磁器など			
要約	調査区は貫川の南にあり、貫山から派生する丘陵尖端部に立地する。 2区はこの丘陵頂部のすぐ西側段下にある、標高は約21mである。斜面を段状に開削してできた平坦面に近世墓と考えられる土坑群が造られている。土坑は、平面形が100～160cmほどの長方形もしくは楕円形を呈し、深さは最大で90cmを測る。埋土に木製の棺材の痕跡が残るものがあり、法量と合わせて考えると、埋葬には方形の座棺が利用されたと考えられる。遺物は六道銭と考えられる寛永通宝とわずかに陶磁器の小片が出土している。 3区は丘陵西側斜面に位置し、東西に長く、東側が高く、西側に向かって低くなっている。この斜面は段状に開削され、標高12～17m程度である。調査区は上下段に分かれている。上段は東側へ向かって高くなる斜面となっている。平面形はL字状に成形され、西側は南北方向に長く、東側は東西方向に長くなっている。この平面形に合わせて溝状遺構が延びている。西側では南北方向に延びる溝状遺構と段があり、階段状になっている。東側では1号溝状遺構が東西方向に約40mに亘って確認された。下段は上段に比べて傾斜が緩く、ほとんど平坦に見える。遺構は調査区全体から溝状遺構や土坑、ピット等が検出されたが、下段の東側には遺構がほとんど見られない。ここは上段との境界付近にあたり、段を成形する際に下段部分が大きく削平を受けたと考えられる。							